

番号		令和5年度 公共事業再評価調書			担当課名 治山林道課																												
事業名	道整備推進交付金事業 林道一本杉峠線			事業主体	静岡県 静岡市																												
箇所名	静岡市葵区 横沢、日向 地内																																
事業採択年度	平成19年度	計画期間	平成19年度 ~ 令和7年度																														
用地着手年度	—	工事着手年度	平成19年度																														
再評価理由※	前回の再評価から（平成29年度）5年が経過した継続中の事業であるため。																																
全体事業費	百万円 747	投資状況 (百万円)	~R3年度 573	R4年度 51	R5年度見込 41	計 665																											
事業概要	<p>(1) 事業目的 当該林道は、玉川地区と大川地区を結ぶ森林管理道である。 経営コストの上昇や作業員の高齢化など、林業を取り巻く環境は厳しい状況にある。利用区域では木と木の間を開けるために間引くこと（間伐等）が必要な4~10齢級の人工林が約26%、木を切る時期（伐期）に達した11齢級以上の人工林が73%を占めている森林資源の状況となっており、路網整備を必要とされる森林が多く残っている。林道整備の遅れは、森林整備の遅れに繋がりを、さらには森林の荒廃による影響が懸念される。以上のことから森林整備を効率的に実施するために機械作業ができる基盤をつくり、低コストな林業を確立し森林整備を促進する。</p> <p>(2) 事業内容 森林管理道 自動車道2級林道 計画延長：5,170m、道路幅員：4.0m、利用区域面積：701ha</p>																																
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会情勢等の変化 森林・林業再生プラン(林野庁作成)では木材自給率50%(R2年度)、また静岡県は県産木材生産量50万m<sup>3</sup>(毎年)を目標に掲げ、豊富な森林資源を低コストで安定的に利用できる体制の構築が求められている。 木材価格の低迷により、機械化等による森林管理コストの更なる効率化及び作業員の負担軽減が求められていることから、当該路線の整備への期待が高まっている。</p> <p>(2) 事業の投資効果（費用対効果分析結果に基づくもの及びその他アピールすべき効果） ・費用対効果分析結果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>平成29年度（前回）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用対効果指数：B/C</td> <td>1.28</td> <td>2.48</td> </tr> <tr> <td>総便益額：B</td> <td>1,119百万円</td> <td>1,878百万円</td> </tr> <tr> <td>総事業費：C</td> <td>876百万円</td> <td>758百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 事業の進捗状況（R5年度末） ・進捗率</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">令和5年度末見込み</th> <th colspan="2">平成29年度（前回）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費(百万円)</td> <td>665/747</td> <td>=89.0%</td> <td>373/747</td> <td>=53.3%</td> </tr> <tr> <td>事業量(m)</td> <td>4,596/5,170</td> <td>=88.9%</td> <td>3,070/5,170</td> <td>=88.9%</td> </tr> </tbody> </table>							令和5年度	平成29年度（前回）	費用対効果指数：B/C	1.28	2.48	総便益額：B	1,119百万円	1,878百万円	総事業費：C	876百万円	758百万円		令和5年度末見込み		平成29年度（前回）		事業費(百万円)	665/747	=89.0%	373/747	=53.3%	事業量(m)	4,596/5,170	=88.9%	3,070/5,170	=88.9%
	令和5年度	平成29年度（前回）																															
費用対効果指数：B/C	1.28	2.48																															
総便益額：B	1,119百万円	1,878百万円																															
総事業費：C	876百万円	758百万円																															
	令和5年度末見込み		平成29年度（前回）																														
事業費(百万円)	665/747	=89.0%	373/747	=53.3%																													
事業量(m)	4,596/5,170	=88.9%	3,070/5,170	=88.9%																													
事業の必要性	<p>評価 <b>継続が妥当</b> ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>																																
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>・地域関係者の協力のもと工事は順調に実施しており、事業の進捗に問題はない。</p> <p>評価 <b>継続が妥当</b> 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>																																
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	<p>・切土量及び盛土量のバランスに留意し、発生土を活用した補強土壁工及び構成L型擁壁工等を採用することで、工事コストの縮減に努める。 ・丸太柵工を積極的に採用し、土砂流出の防止による林道維持管理コストを縮減するとともに、間伐材の利用促進に努める。</p>																																
対応方針案	<p>(1) 対応方針案 本事業を（ <b>継続</b> ・ 中止 ）する。</p> <p>(2) 理由 当該林道の整備は、持続的な林業経営に向けた効率的かつ安定的な低コスト林業の確立に不可欠であり、森林資源を活用した産業振興及び地域活性化に対する地元の期待が高いことから事業継続は妥当と考える</p>																																